

【人工耳(Artificial Ear)の使用方法】

主な使用目的：骨伝導ヘッドホンの音響特性測定

使用するもの（以下は、OctaCaputure と MATLAB を使って測定する場合の例）

(1) Artificial Mastoid TYPE 4930 本体

ケースポケットの中に (3)アダプタ、(4)同軸ケーブルが入っている。



(2) マイクプリアンプ：B&K Type 2669



(3) アダプタ：JJ2617



(4) 同軸ケーブル



(5) マイク電源：4-channel Microphone Power Supply Type 2829



(6) アンプーマイク電源接続用ケーブル：



OCTA-CAPTURE



BNC ケーブル、BNC-RCA 変換、RCA-ホーン



人エマストイドの使い方

必ず以下の手順に従うこと。

1. 「同軸ケーブル(4)、アダプタ(3)、マイクプリアンプ(2)、アンプーマイク電源接続用ケーブル(6)」を図1のように接続する。同軸ケーブルに方向性はないが、電源接続用ケーブルは細い方がプリアンプ側である。プリアンプとケーブルの「赤い印」の位置を合わせる。無理やり差し込むと、ピンが折れて使用できなくなるので注意！

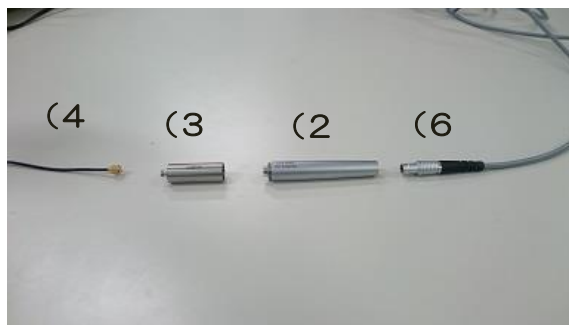


図1

2. 同軸ケーブルの反対側をマストイド本体と接続する。(図2)



図2

3. マイク電源に電源接続用ケーブル(太い方)を接続する(図3)。「赤い印」の位置を合わせること。無理やり差し込むと、ピンが折れて使用できなくなるので注意!
4. マイク電源と OctaCapture を BNC ケーブルで接続する(図3)。OctaCapture 側は BNC→RCA→ホーンプラグに変換して接続する



図3

5. 骨伝導ヘッドホンを挟んで音を再生し測定（図4）。ヘッドホンに厚みがある場合は、ネジを緩めて適度に高さを合わせること。

図4では、本体とその他装置（PC、OctaCapture等）との距離が近いが、振動や音を発生する機械は電源を切っておくか、本体と十分な距離を取るなど、測定に影響のないように注意すること！



図4

6. これまでの手順を逆に行い、片づける。